

## 第2回 在宅療養を支えるスタッフのための多職種連携研修会 アンケート結果

※研修会の概要は別紙3を参照

日時 令和5年9月9日(土) 14:00~17:00

場所 シンヨーオークアリーナ ミーティングルーム4・5・6

参加者数(事務局含む) 72名

職種内訳：医師4名，歯科医師1名，薬剤師4名，看護師11名，保健師1名，臨床工学技士1名，  
理学療法士1名，ケアマネジャー27名，介護福祉士1名，ソーシャルワーカー9名，  
介護福祉士3名，医療・介護事務4名，行政5名

アンケート回収(回収率) 45(62.5%)

## 1 あなたの所属機関を教えてください。

所属機関	人	%
訪問看護ステーション	3	6.7%
訪問介護事業所	1	2.2%
保険薬局	1	2.2%
病院	4	8.9%
通所介護事業所	1	2.2%
地域包括支援センター	6	13.3%
診療所	6	13.3%
歯科医院	1	2.2%
居宅介護支援事業所	19	42.2%
介護保険施設	2	4.4%
その他	1	2.2%
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>

## 2 あなたの職種を教えてください。

職種	人	%
ケアマネジャー	23	51.1%
ソーシャルワーカー	3	6.7%
リハビリスタッフ(PT,OT,ST)	1	2.2%
医師	2	4.4%
医療・介護事務職員	3	6.7%
介護職員	1	2.2%
看護師	6	13.3%
歯科医師	1	2.2%
保健師	1	2.2%
薬剤師	2	4.4%
その他	2	4.4%
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>

### 3 本日の研修会はいかがでしたか。

回答	人	%	
とても満足	27	61.4%	97.8%
満足	16	36.4%	
やや不満	1	2.3%	
<b>総計</b>	<b>44</b>	<b>100.0%</b>	

### 4 パネルディスカッションは貴職において参考になりましたか。

回答	人	%	
とても参考になった	24	54.6%	97.8%
参考になった	19	43.2%	
どちらでもない	1	2.3%	
<b>総計</b>	<b>44</b>	<b>100.0%</b>	

### 5 パネルディスカッションで参考になった点や貴職の業務に活かせると思った内容等を教えてください。

- ・他職種連携の大切さを感じました。
- ・お薬手帳の最後に担当者氏名を書いておく
- ・どの職種も大切。連携をして今後も利用者様の自分らしい生き方ができる様に支援していきたい。
- ・ACP を考える時期について
- ・お薬手帳の裏に訪問看護師とケアマネの名前を記載しておく事は大事なことだと思うので、実行しようと思います。
- ・情報共有の点
- ・ヘルパーさん達の思いがわかりました。
- ・病院の薬に関する情報
- ・なかなか、医師の方のお話を直接聞く事はないのでよかったです。色々な職種の壁がなくなればよいと思いました。
- ・病院にホームページから、患者さんの情報をもらう用紙が印刷でき、記入して情報収集に利用できることがわかったので、活用したいと思います。医療保険と担当ケアマネの名刺を一緒に保管して入院時に出して下さいと契約時に説明しているが、浸透していないと感じた。
- ・インフォーマルサービスの情報閲覧の存在、MCS の存在など未知の情報発掘できたこと。
- ・在宅の支援について参考になった
- ・各職種の立場の日常業務における、問題点や解決策、思い等が聞けたのは参考になった。
- ・行政では、現場でどういう課題があり、どういった対応をしているのか掴めないことも多いので、現場の声が聞けた点が良かった。
- ・労災病院のお薬に関する書類。訪問看護や訪問介護が、改めて大事であることを再認識しました。
- ・大宇根先生の ACP のタイミングの時期の件。
- ・医療職の方も忙しいなか対応してくれている。必要な情報を適切にやり取りできれば調整が双方ともスムーズに出来る意識は同じだと理解できた。薬を正しく服用することがとても大切と改めて意識持てました。
- ・入院になった際に、担当のケアマネが誰なのかを無理なく伝えられるよう、声かけだけでなく、もう一工夫が必要と感じました。"
- ・入院時で病院、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーが困っていることが直に聞いて良かった。

- ・多種目の立場からの意見交換があり、知らなかった情報を聞くことができました。
- ・患者さんが退院後スムーズに在宅生活を送るためには、退院前のカンファレンスがとても大切なことが改めてわかりました。
- ・リハビリ以外の医療と介護のギャップを知ることが出来ました。

個人情報の開示について、居宅や包括と急性期病院で同意書を交わし、その旨を利用者様に同意書をいただければ解決できないでしょうか？

- ・ヘルパーやデイサービス担当者の意見をかかりつけ医に届ける必要性や情報共有の重要性を再認識しました。上瀬さんが言っていたお薬手帳に訪問看護師、ケアマネジャーの氏名を記入するのはいいアイデアだと感じました。
- ・情報共有の重要性や多職種、他機関との顔の見える関係づくりを構築していくことが重要だと思いました。
- ・多職種連携の重要性をあらためて学ぶことができました。
- ・薬剤情報の様式があることが分かった
- ・医師の意見
- ・自分とは違う視点がある事に気づく事が出来ました
- ・それぞれの職種における視点

#### 6 座談会の時間は適切でしたか。

回答	人	%
長い	1	2.2%
やや長い	3	6.7%
適切	36	80.0%
やや短い	5	11.1%
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>

#### 7 新たな顔の見える関係性を築くことができましたか。

回答	人	%
できた	18	40.0%
ややできた	27	60.0%
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>

#### 8 座談会において、意見交流はできましたか。

回答	人	%
できた	27	60.0%
ややできた	18	40.0%
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>

9 ワールドカフェ方式での意見交流はいかがでしたか。御意見や御感想がありましたら、自由に御記入ください。

- ・良かったです
- ・もっと沢山の話、意見が聞きたい

- ・職種を超えて自由に話ができ楽しかったです。今後もまた機会を作って下さい
- ・研修が、中弛みせず集中してよかった
- ・最初にハードルを低くして、リラックスしてとのお言葉があったので、会話が盛り上がり、話しをした事のない先生にも質問をして、内服薬の事など教えて頂きありがたかったです。
- ・それぞれの立場の話、特に介護職の方の現場の声がとても勉強になった
- ・グループ発表とかなかったのが気楽に話できました。
- ・皆さん、一生懸命にご利用者の方のために色々考えておられるのが、とても今後の仕事に向かいあう力になりました。呉市は、まだまだよい方向にむかって行くと思えました。
- ・3ラウンドでまた1ラウンドにグループに戻って意見交換することで、より沢山の情報を得る事ができた。
- ・色々な職種の方たちとそれぞれの視点から見た問題点をお話できてとても勉強になりました。
- ・今まで見えなかった在宅での支援について少しだけ理解ができた
- ・井戸端会議のようでリラックスした気持ちで話しができました。最初、模造紙が机の上にあったので、これは大変なことかなあって、緊張しましたが、やってみると、みんなで記入したり、移動した後も読み返すことができ、他の考え方も見えるし参考になりました。
- ・コロナ禍の研修は、オンライン形式が続いていましたが、3年ぶりくらいに顔を合わせての研修に参加してみて、やはり、生で顔を合わせての会話は親密度が上がり、とても良かった。カフェ方式については、ざっくりばらんに話しやすい雰囲気良かった。とても楽しかった。
- ・ここが、顔が見える関係作りのメインとなる部分だと思いますが、各自がテーマへの意見等を考え、紙に書く時間を除くと、意見交換を互いにする時間はほとんどなかった。
- ・病院でして欲しい事を院外の職種から聞く事が出来て参考になった
- ・ワールドカフェは初めて知ったので、今後研修会を行う立場になった時にやってみようと思います。
- ・意見交換がしやすかった
- ・楽しくできました。
- ・戻ってきた時に、話がさらに発展するので面白かったです
- ・結論を出さなくて良いため意見交換が行いやすかったです。
- ・ホストが予め決まっていたので、安心でした。初対面でグループの司会や書記、発表者を決める機会が多く、プレッシャーになるので。
- ・気楽に会話できるので思っていることが出し合って良かったと思います。
- ・グループが変わることで、多くの職種な人と関わり、意見や情報を得ることができました。
- ・人数もちょうどよく、とても話しやすい雰囲気でした。
- ・気忙しさはありましたが、ホストの手際が良かったのでこういう方式も、OK
- ・楽しかったです。
- ・皆さん喋ることに必死になってしまい、なかなか記入しようとしなない(できない)場面が多かったです。成果物を残すことを考えると書記(代理で記入)担当がいたらよかったのかもしれませんが。でも皆さん、友好的に議論や意見交換ができました。
- ・様々な職種の方、機関の方との意見交流を行いそれぞれの視点などを学ぶことができました。
- ・集中してできとてもよかったと思います
- ・コロナ禍で対面での交流が途絶えていたが、オンラインよりも意見の交換がスムーズに出来ると感じた。
- ・オンラインより意見交換がしやすいと感じました。

10 自分以外の職種への理解を深めることができましたか。

回答	人	%	
できた	20	44.4%	95.5%
ややできた	23	51.1%	
どちらでもない	2	4.4%	
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>	

11 今後の業務に役立つと思いますか。

回答	人	%	
とても役立つ	17	37.8%	97.8%
役立つ	27	60.0%	
どちらでもない	1	2.2%	
<b>総計</b>	<b>45</b>	<b>100.0%</b>	

12 あなたが普段の業務で感じる多職種連携における課題を教えてください。

- ・皆、多忙な中、一同に集まり意見交換する事が難しいと感じています。
- ・歯科業界に、他職種連携を担う意識が少し不足している点。
- ・他の職種、環境を知る
- ・医療機関との連携 聞きにくいです。
- ・チームケア感を感じることが少ない
- ・急な退院や、退院の予定が急に変更になる時。
- ・情報共有におけるお互いのニーズの把握
- ・普段関わりのない事業所との連携がよくわからない。ACP
- ・誰もが同じ方向をむいていない
- ・なかなか忙しく、心に余裕がなくなったときに、相手に対してきつい言葉になってしまう事があると思います。相手の立場の事も考えて、行動していけたらと思いました。
- ・利用者さんの新しいことや共有しないといけない情報を関わっている事業所が多いと何箇所も連絡しないといけないので大変なこともある。
- ・どの職種であってもその人や取り巻く環境を考え意見を出し合えるようなチーム作りを目指して行きたいと思いました。
- ・病病連携、病院からの在宅移行への連携のあり方、また、介護保険の結果がでるまでのタイムロス
- ・医療系との連携
- ・他職種連携をとる事は、当然の事という認識ですが、お互いに連絡をとっても、他の業務にあたっていて、不在の事が重なり、なかなか連絡が取れない事がある。週末、連休前、年末年始の休み前等に急な連絡が入っても、休み期間に入ると相手事業所の方と連絡が取れなくなり、連携や相談、調整困難となる。その間も、本人・ご家族に、「待た」はない。ケアマネとしては、かなりのストレスを感じる。だからといって、仕事をしている人も、皆1人の人間なのでプライベートがあり休みも必要。
- ・今回は主に高齢者の在宅医療介護連携でしたが、医療機関だと、障害者や行政との連携はどうすべきかが明確になっていないことが課題として残っていると思います。
- ・それぞれの立場からの改善して欲しい所の妥協点を探る事

- ・入院をしても、こちらから情報提供出来ていないことがある(急で書類が出来ていない、いきなりで書く時間がない等)。逆に申し訳ないと感じる時があります。
- ・各職種の視点から情報共有し合い、その後のチームケア 本人家族さまの心の揺らぎも見据えての軸の共有
- ・何でもかんでもケアマネが伝えなくてはいけないような風習は辞めてどんな職種の方も連絡がスムーズにできるようにしたい。
- ・お互いの業務への理解は出来ても、連携する時間がそれぞれ多忙で取りにくい
- ・連絡ツールが電話。一件一件。一斉に伝達できると業務効率化。電話は営業時間が過ぎると繋がらない。
- ・相手が忙しいだろうか?とかお門違いな話になっていないだろうか?とか余計なことをつい考えてしまいます。何かしらツールで繋がりを持てると良いと感じました。
- ・医師との連携でハードルを高く感じる。
- ・グループホームでは、多種との関わりや交流の機会はほとんどありません。情報を得る機会がありません。
- ・直接会えないケアマネとの連携。特に電話でしか連絡がとれない事業所との連携がとりにくい。
- ・其々の職種の日常に起こりうる問題を、もっと掘りさげての、討論会を希望します。
- ・共通言語の統一と使用しているツール。
- ・介護→医療の情報提供不足
- ・職種の専門性、着眼点の違いなどによる情報共有の難しさ。コミュニケーションの取り方。
- ・医師との連携のハードルがやはり高く感じる

### 13 今後希望する研修会のテーマ等について、自由に御記入ください。

- ・特記事項なし
- ・救急隊を加え意見交換
- ・地域と認知症の関わり、理解
- ・また、是非今回の医療と介護の連携・協同を目指してをお願いします。
- ・入院から退院→療養型病院→施設、在宅のなかでの情報共有の仕方について流れで一人の利用者を追えるような
- ・ACPについて気軽に身近になるような講演会が職種を交えて考える場があれば良いかと。
- ・ACPを、すすめて行く、方法の、研修に、参加したいです
- ・地域で最期まで生活できる為 認知症関連
- ・主に呉市高齢者の情報共有 他職種、他部門の問題点など
- ・本日のような他職種連携は続けてほしい。

HM ネットの詳細、事例。

困難事例、身寄りのない方の携わり、経済的困窮者の方の支援。

在宅サービス(デイケア、デイサービス、訪問入浴、訪問介護、訪問看護、訪問リハ、福祉用具、ケアマネ等)の他職種連携も。

- ・今回のように全体的なものも大切ですが、実際には、地域、圏域での連携が実践となると思います。圏域ごとでもこうした場が開催されて、それを全体で共有できる仕組みが出来たら良いと思いました。
- ・災害訓練ですかね。
- ・家族への伝達の仕方
- ・医療介護連携で、テーマをもう少し狭くして、現場スタッフが参加しやすいものも良いかと思います。医療介護連携の内服管理について等(医師、薬剤師、看護師、ヘルパーが参加しやすいかも)
- ・知識不足なのでどんな研修にも参加したい。

- ・今回のような感じで、障害福祉や社協、インフォーマルサービスなど、他制度の方とも顔の見える繋がりを持つ機会があればと思います。利害でなく、公共の利益に貢献できる形で協働できたら嬉しいです。
- ・医療と介護のギャップを埋めるものが嬉しいです。
- ・テーマは同じで問題ないと思いました。積み重ねていきながら、ルールづくりができればと思います。
- ・認知症利用者の支援における連携

#### 14 その他、御意見や御感想がありましたら、自由に御記入ください。

- ・また参加できると幸いです
- ・定員オーバーで断るなら各施設で定員を設ける、出来れば希望者は皆受け入れる。
- ・色々な職種。ヘルパーさんや通所 入所の方とも話ができる機会があれば。今回もとても良い時間になりましたが、次回はもっと沢山の職種が参加できる様お願いします。"
- ・ありがとうございました
- ・色々な職種の方からの発言を聞き、反省や自分自身の振り返りができました。とても有意義な時間でした。
- ・呉市の命の宝箱、75歳箱 是非実現してほしいです！
- ・呉市は、まだまだ若い方、多種職の方々が力を合わせれば、住みやすい地域になっていくような気がしました。高齢者の方が、少しでもご自分のお家で過ごせるように、日々出来る事をコツコツ行って行ければと思いました。
- ・多職種の方の沢山の意見を聞く事ができ、とても学びがあった。行政の方も参加されていることで、課題を共有して改革に繋がっていくと感じとても意味があるとかんじた。和やかな雰囲気で開催され沢山のの方が発言しやすかったと思う。
- ・今後も多職種間で垣根を越えて親睦を深められるような会があれば是非また参加したいと思いました。
- ・有意義な会でした。円滑な連携には他を知ることや歩み寄りが大切だと再度認識しました。ありがとうございました
- ・本日、とても楽しかったです。顔が見える関係は、やはりイイですね。
- ・今回は、企画、準備と大変だったと思います。お疲れ様でした。今後とも呉市の在宅医療介護連携の推進のため、頑張ってください。
- ・斎藤さんを始め、行政の皆様、研修を企画して頂きありがとうございました。私もケアマネ協の研修を企画する立場にあるので、常に研修というのが頭にこびりついて、充実した研修というよりも、何かしないといけないという想いのほうが強く、参加された方にとって、本当にこれで良かったのかとよく思います。今日の研修会は、私が企画する研修会よりも遥かに良い研修会で、楽しかったです。どうしてもzoomでの参加に慣れがちですが、現地参加の研修会を行うようにしていけたらと思います。発表も出来て良かったです。ありがとうございました&お疲れ様でした。
- ・久しぶりに対面での研修で、色々な方と話が出来ました。ありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とっても貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました！また参加したいです😊
- ・意見交換をしやすいような環境を作って頂き、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。また機会があったらぜひ参加させて頂きたいと思います。"
- ・初めての参加に、感謝します。ありがとうございました。
- ・対面での研修を繰り返し、共通言語の統一と医療・介護や職種の考えを理解出来れば、より良い医療・介護が提供出来るようになると思います。また、提案として利用者様の連携ファイルを1つ作り、そこに必要な情報を入れるようにすれば、紙の情報を探す手間が省けると思います。それ以外に救急搬送時等にそのファイルがあれば、急性期病院からケアマネジャーに連絡がしやすいと思います。

- ・各パネリストが言いたいことがあったのではないかと思いますし、聞きたかったです。でも全体的には楽しい会だったと思います。ありがとうございました。
- ・研修会を開催いただきましてありがとうございます。多職種、他機関と一堂に顔を合し話をする機会は中々なく貴重な時間でした。
- ・顔の見える関係作りが出来、非常に有意義な時間でした。ありがとうございました。

## 15 考察 (振り返り)

- ・参加者の半数以上はケアマネジャーであった。人数は少ないものの様々な職種の参加があり、多職種連携・協働に対する関心の高さが伺えた。
- ・研修会やパネルディスカッションが参考になったかは、いずれも9割以上と満足度が高かった。
- ・座談会（ワールドカフェ方式での意見交流）は、参加者全員が意見交流、顔の見える関係づくりが「できた」「ややできた」と回答した。また、「話しやすかった」「多くの情報を得ることができた」などの意見があり、学習目標は達成できたと考えられる。
- ・自由意見より、対面形式かつワールドカフェ方式で開催したことで、意見交流しやすく満足度をさらに高める結果となったと考えられる。"
- ・他職種への理解が深まったと回答した人は9割以上と高かった。
- ・自由意見やグループ成果より、多職種連携における課題については、連絡ツールや情報共有不足などの意見が多かった。円滑かつ適切に情報共有できる仕組みづくりが必要と考えられる。

## 16 運営について

- ・パネリストへの質疑応答の時間を設けたが、質問が出ず会場全体での質疑応答の形となった。パネリストの意見をもう少し聞きたかったという意見もあり、パネルディスカッションの後に質疑応答をするなど、プログラムを再考する必要がある。
- ・当日は軽食と飲み物を準備したが、休憩時間が短くゆっくり食べる時間がなかった。しかし、感染対策の観点や持って帰れるように個包装にしたことで喜ばれた。
- ・各テーブルの間隔が狭く、また感染対策のためマスク着用であったため、グループメンバーの声が聞こえづらかった。研修会の内容を踏まえて、会場の広さ、人数、テーブル配置など再考が必要か。
- ・参加人数規模については、定員50名としたが申込受付終了後も問い合わせが多くできる限り拡充した。問い合わせがあった方は受け付けたが、定員超過で申込できなかった方もいたため、人数規模については再考が必要か。
- ・くれ福祉のお役立ちサイト「しっとってクレ」の広報を行ったがチラシを配布していなかった。参加者の中にはしっとってクレを知らない方もいたため、媒体を活用し効果的な広報を行う必要がある。

## 17 今後について

改めて、医療・介護連携や多職種連携への関心が高いこと、対面形式での研修会のニーズが高いことが分かった。また、多職種連携が円滑に進めることができるような仕組みづくりのニーズがあることも確認された。より多職種間コミュニケーションや相互理解を図る機会を専門職に提供することが必要と考える。今後は、各圏域の課題・ニーズ、地域性を加味したテーマを設定し、より効果的な研修会を開催する。

未だ様々な感染症罹患のリスクがあるため、開催にあたっては引き続き感染対策に留意し、今回得た課題や意見を踏まえ、多職種連携を推進するため継続的に実施していきたい。